

税で地方を支えることについて

国立市立国立第一中学校 三年 須田 惺

最近のニュースでは、日々コメの値段が上がったことについて騒がれているが、我が家では備蓄米の列に並んだりすることも、スーパーなどに高いコメを買いに行くということもない。しかし、ほぼ毎日主食としてコメを食べ、おかわりもできている。それは、なぜかという毎月コメが届くからである。このコメは父が寄付した「ふるさと納税」の返礼品として新潟県胎内市から届いている。

新潟県胎内市には私の父方の祖母の実家があり、私自身も小さい頃に曾祖父、曾祖母にかわいがってもらって、今でも父の叔母やいとこなどの親族が住んでいる。お盆の時期には毎年のように家族で帰省しており、思い出もたくさんあるとても関わりの深い町である。このように、家族と私にとって大切な町を応援でき、日々の生活の助けにもなるふるさと納税はとてもいい制度だと思っていた。

そこで、普段から世話になっているふるさと納税について、気になって詳しいことを調べることにした。すると、ふるさと納税という制度には良い面ばかりあるわけではないと分かった。まず、ふるさと納税とは、自分が応援したい自治体に寄付をする代わりに、寄付した金額の二〇〇〇円を超える分は自分の住んでいる自治体に納める住民税の控除や、所得税の還付を受けることができるという制度であり、人口の多い都市部の税收の一部を地方に還元する仕組みである。

ふるさと納税をすると寄付した地方の自治体から名産品などの返礼品をもらうことができる。この仕組みは実質負担二〇〇〇円で、人口減少により税收が不足する地域を応援することができるが、住民税の控除により自分の住む自治体の税收は減る。地元を応援できる制度はよいと思うが、多くの人が返礼品目当てに寄付をするということは問題にもつながる。例えば過度な返礼品を用意する一部の自治体にお金が集まりすぎて、私達の日常を支える都市部の自治体の資金が減りすぎる可能性がある。これは都市集中型社会における地方と大都市の格差是正や、人口減少地域における税收減少対策という目的に対して立場が逆になったり、地方同士の格差が拡大したりただで根本的な解決にはなっていないと思った。

税制は、例えば私達が通う学校や生活の安心安全など、日常の暮らしを支える公共に役立てるお金を集める仕組みであり、普段の生活にも深く関わるが、日本の未来を形作るための重要な仕組みでもあるため、安易に一番良い納め方を決めることはできないと思う。だからこそ、ふるさと納税など、家族で話し合いやすい話題から税金の使い道や意義などを考え、将来税金を払うようになったとき、現状存在する制度でどのように納めるか、どのような制度があったらよいかを考えていくことが大切だと思った。